

20240215 我が家から生ゴミが消えた！

2日連続で、4年生のインタビューの話から生ごみ処理の話を展開してきました。

ところで、皆さんは昨年10月12日に発信した「**20231012 本気のコンポストづくり**」の記事を覚えていらっしゃるでしょうか。昨年の夏に宮崎でこのコンポストに出合ってから、我が家では、「早く買おう！」という娘の声が絶えませんでした。ニンジンなどの根野菜をピーラーでむいた時に出る皮、キャベツや玉ねぎなどの外側の皮、果物の皮、卵のから、そうした生ゴミがバケツに捨てられるのをもう黙って見ていられないという感じでした。加えて、特に夏場は生ゴミのバケツからは悪臭が出ます。木製コンポストは臭いが出ないのが特徴と聞いています。昨年は、10月まで夏日が続きました。コンポスト生活を始めたいとは思いましたが、小平市と違って私の住む中野区はコンポスト助成がありません。3万円という高額を前にして、正直ためらっていました。

試みに、秋に本校学校経営協議会委員の本田さん（小平市在住）にこのコンポストをすすめたところ、二つ返事でご購入され、早速始められました。ご感想を伺うと、やはりなかなかいいとのことでした。娘の声にも後押しされて、我が家も昨年末に購入することにしました（送料は0円でした）。取組は1月にスタートしました。始めたその日から、我が家から生ゴミが消えました。とにかく（できれば細かく切り刻むといいのですが）生ごみという生ゴミは片っ端から入れて、かき混ぜればいいのです。それだけです。生ごみ自体、もともと80%が水分ですから、水を入れる必要はありません。冬場はみかんの皮が多く出ます。コンポストのふたを開けると、柑橘系のいい香りすらします。しかし、寒いからでしょうか、発酵はなかなかすすまない感じでした。かき回してもバナナの皮はそのままだけに見えました。しかし、先日の3連休の朝、ふたを開けていないのにコンポストからみかんのいい香りがしているのに気が付きました。新しい生ゴミを入れようとふたを開けたら、土からいい香りが立って、

しかも土自体が温かくなっていました。これが「発酵」というものかと感心しました。

本田さんが、「始めると分かるんだけど、これって結構楽しいですよ！」と笑顔で話されていた意味がよく分かりました。「大変なことが増える」と最後まで購入に懸念を示していたかみさんも、楽しそうに土をかき混ぜながら、我が家から生ゴミが消えたことを喜んでいきます。我が家はまだ始めたばかりですが、日本国中にこうした取組が広がったらどんなに素晴らしいだろうと思います。生ゴミは各家庭で処理をする、または生ゴミはゴミとしてではなく、「資源として」回収し肥料として活かすという循環型のライフスタイルが「あたり前」になったら、凄いなと思います。

「あたり前」をつくる上で、行政の政策や指導はとても大切です。行政がゴミの分別方法を決めて回収するから、それに合わせて家庭でも分別をするわけです。ゴミの回収を有料ゴミ袋に変えたときだって、市民はだまってそれを受け入れました。政策を受け入れる土壌として、市民にゴミ処理に関する基礎知識があること、行政サービスを支える財源が必要であることや、有料化することでゴミ削減が期待できることなどを一人一人が理解していることがあると思います。その上で、あっという間に「右へならえ」ができるということは凄いことです。しかし、市民レベルでのムーブメントが起きにくいのもこの国の特徴ではないでしょうか。一人一人に知識はあるのに、自分で問題意識をもって考えたり、人と問題意識を共有し合ってよりよい社会をつくっていかこうと提案したり行動したりする動きがほとんどなく、言われるまで行動せずに、常に受け身でいるように見えてしまう。それは、この国が子どもたちに行ってきた教育自体にも大きな原因があると考えます。今こそ「主体的・対話的・深い学び」の大切さを思います。問題を発見し、これからこういう社会、未来を創っていきたくいと、いいものを柔軟に受け入れ、考え行動する中に、新しい「あたり前」を創造していく、そうした子どもを育てていきたいですね。